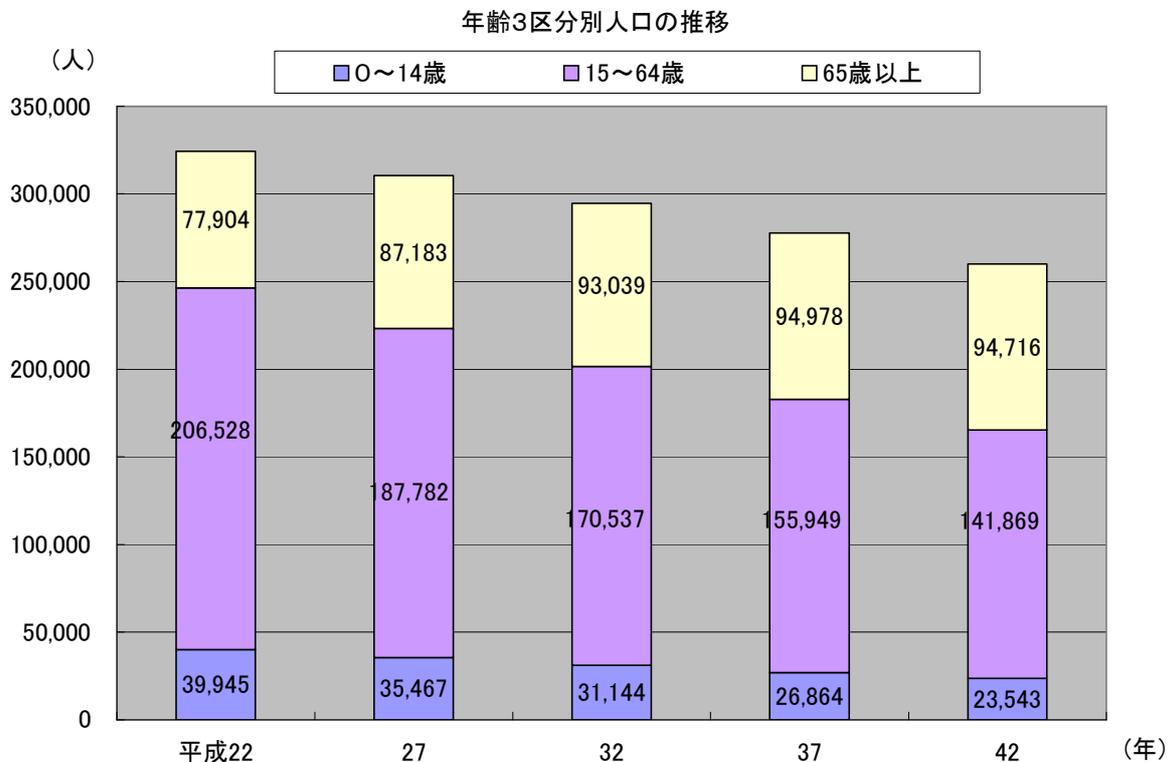


## 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の策定について

## 1 秋田市の高齢化の現状と推移予測

秋田市の人口は、平成22(2010)年に324,377人で、17(2007)年国勢調査人口の333,109人から5年間で8,732人減少した。今後はこれを上回るペースで人口が減少していくと予測される。

また平成22年の年齢3区分別人口の割合は、年少人口(0歳～14歳)が12.31%、生産年齢人口(15歳～64歳)が63.67%、高齢者人口(65歳以上)が24.02%で、今後は、年少人口および生産年齢人口が減少傾向にある一方で、高齢者の人口は一貫して増加し、平成37(2025)年には高齢者人口が34.19%となり、およそ3人に1人が高齢者となる。



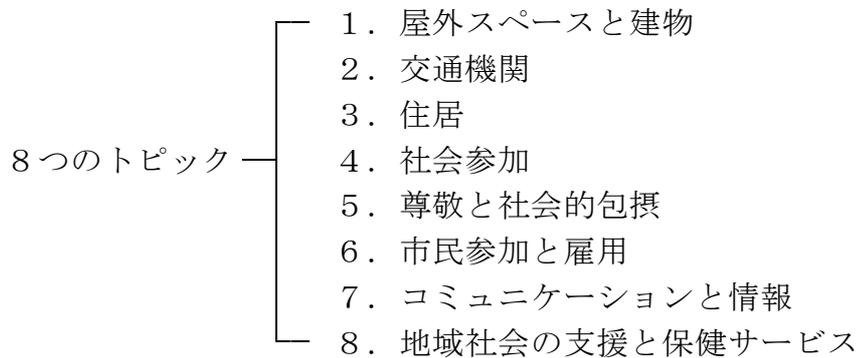
推計年次	全体人口			年齢(3区分)別人口			年齢(3区分)別割合		
	総人口	男	女	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
2010年(平成22年)	324,377	152,836	171,541	39,945	206,528	77,904	12.31%	63.67%	24.02%
2015年(平成27年)	310,432	145,755	164,677	35,467	187,782	87,183	11.43%	60.49%	28.08%
2020年(平成32年)	294,720	137,856	156,864	31,144	170,537	93,039	10.57%	57.86%	31.57%
2025年(平成37年)	277,791	129,357	148,434	26,864	155,949	94,978	9.67%	56.14%	34.19%
2030年(平成42年)	260,128	120,495	139,633	23,543	141,869	94,716	9.05%	54.54%	36.41%

県都『あきた』成長プラン(平成23年3月)より抜粋

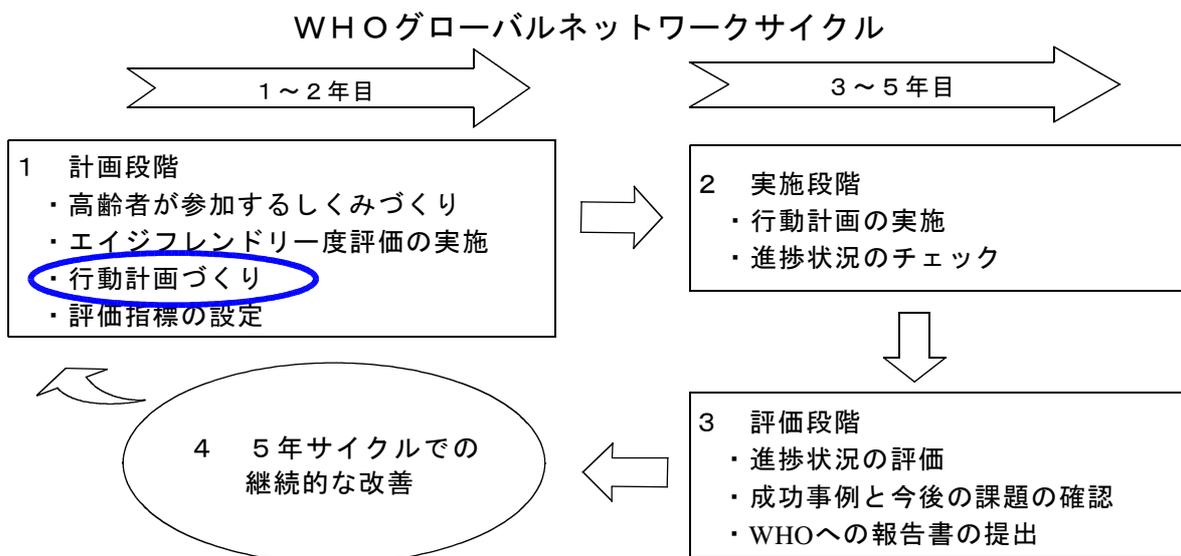
## 2 エイジフレンドリーシティとグローバルネットワークについて

エイジフレンドリーシティとは、世界的高齢化・都市化・都市の高齢化に対応するため、WHO（世界保健機関）によって提唱されたプロジェクトで、「高齢者にやさしい都市」という意味である。

同プロジェクトは、世界22か国33都市で実施した、高齢者に関する聞き取り調査結果から、高齢者にやさしい都市を実現するために、検証が必要なトピックを次の8つにまとめた。さらに8つのトピックに関する「高齢者にやさしい都市に不可欠な特徴の84のチェックリスト」を作成し、各都市が自己診断するためのツールとして示した。



WHOは、エイジフレンドリーシティを推進する都市への支援や都市同士の連携を図ることを目的に、2010年、エイジフレンドリーシティグローバルネットワークを設立し参加を呼びかけた。



## 3 行動計画について

秋田市は、超高齢社会を見据えた対応として、「エイジフレンドリーシティの実現」を推進している。平成23年12月、日本国内初のグローバルネットワーク参

加都市となり、今後はWHOが示すネットワークサイクルに基づき、エイジフレンドリーシティを推進する。

WHOはグローバルネットワークにおいて、参加都市が「高齢者をはじめとする市民が計画、実施、検証のあらゆる段階に主体的に参加していること」を重要なポイントとしている。そのため「高齢者を策定過程のみならずあらゆる段階に参加させていくための仕組みづくり」を構築し、この仕組みを取り入れた行動計画を策定する必要がある。

秋田市のネットワークサイクル期間は、平成24年4月1日から平成29年3月31日までの5年間とされている。ただし、計画段階のプロセスは2年以内に完了しなければならないため、行動計画は平成26年4月1日までにWHOに提出する必要がある。

#### 4 グローバルネットワークの加盟状況

平成24年7月時点で、加盟都市は18か国100都市を超えている（WHO担当者からのメール情報）。WHOは今年中に、加盟都市同士の連携や情報交換のためのウェブサイトを立て上げる予定である。これにより今後、各都市の進捗状況や取組内容、行動計画などの情報を容易に入手することが可能となる。

#### 5 これまでの取組経過

H21年度	10月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内関係課所室職員による庁内勉強会の開催</li> <li>・ 各種調査結果、既存データを収集し、勉強会報告書を作成</li> </ul>
H22年度	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内職員による秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進庁内連絡会を開催（10月に2回目開催）</li> </ul>
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部委員による秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会を設置、開催（H24年6月までに計7回開催）</li> <li>・ 推進のためのアンケート調査実施（8月取りまとめ）</li> </ul>
	7～8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進のための聞き取り調査実施（18回実施）</li> </ul>
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エイジフレンドリーシティ構想推進協議会中間報告(案)を作成し、市民100人会および市議会から意見聴取</li> </ul>
H23年度	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」で、成長戦略のひとつに「エイジフレンドリーシティの実現」を設定（計画期間：平成23年度～27年度）</li> </ul>
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会が「秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）構想に関する提言書」を秋田市長に手交</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティフォーラムを、秋田拠点センターアルヴェで開催</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際高齢者団体連盟（IFA）事務局長ジェーン・バラットさんを招聘し、下記事業を開催</li> <li>①エイジフレンドリーシティ構想庁内研修会</li> </ul>

		②市中心市街地におけるアセスメントおよび意見交換会 ③エイジフレンドリーシティ講演会
		・WHOグローバルネットワークに秋田市が参加登録
	12月	・秋田市のWHOグローバルネットワーク参加登録申請を、WHOが正式に受理
H24	4月	・秋田市のグローバルネットワークサイクルがスタート
	5月	・第11回IFA高齢化国際会議（チェコ共和国プラハ）に出席し、穂積市長が秋田市の取組を発表
	7月	・秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会を廃止

## 6 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会の「秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）構想に関する提言書」

推進協議会の提言書では、8つのトピック別に今後市として取り組むべき具体的な課題について協議した内容をまとめたほか、更に重点的に取り組むべき課題として、以下の4点を挙げている。

- 高齢者や高齢社会に関するマイナスイメージの払拭とプラスイメージの創出
- バリアフリー化の推進
- 交通手段の確保
- 高齢者の孤立防止

## 7 秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」の成長戦略

平成23年度からスタートした秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」において、「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現」を成長戦略のひとつに位置づけ、一体的かつ集中的に推進することとしている。

成長戦略	エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)の実現
------	-----------------------------

重点プログラム	主な事業
I エイジフレンドリーシティ構想の普及啓発	・エイジフレンドリーシティ構想推進事業
II 高齢者の多様な能力の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高年齢者就業機会確保事業費補助金</li> <li>・要介護者支援体制事業</li> <li>・介護支援ボランティア制度運営経費</li> <li>・傾聴ボランティア養成事業</li> <li>・地域包括支援センター運営事業</li> </ul>
III バリアフリー化の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園都市公園バリアフリー化事業</li> <li>・エイジフレンドリーシティ構想推進事業</li> </ul>
IV 高齢者の交通手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス総合交通改善事業</li> <li>・バス待合所改修事業費補助金</li> <li>・高齢者コインバス事業</li> </ul>